

高城町文化財調査報告書 第5集

^がん ^でら 雁 寺 第 2 遺 跡

^やま ^しろ 山 城 第 1 遺 跡

平成7年度細井地区県営農地保全整備事業に伴う
埋蔵文化財調査概要報告書

1996

宮崎県北諸県郡

高城町教育委員会



垂飾



遺跡発掘調査前空中写真

序

高城町教育委員会では、平成7年度細井地区県営農地保全整備事業に伴い、宮崎県北諸県農林振興局の委託を受けて、埋蔵文化財の発掘調査を行いました。

今回の発掘調査では、縄文時代から平安時代にかけての数多くの貴重な資料を得ることができました。

特に、縄文時代の竪穴住居や垂飾品などは、宮崎県の縄文時代の研究に影響を与えるだけでなく、今後の町民各位の歴史研究や文化財保護の向上に寄与することと期待しております。

末筆ながら、遺跡の発掘調査及び整理、本書の作成に際し、多大なるご協力、ご理解を賜った細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、宮崎県教育委員会文化課、各関係機関、町民各位の皆様方に深く感謝を申し上げる次第であります。

平成8年3月

高城町教育委員会

教育長 新 地 文 雄

例 言

- 1、本書は、宮崎県北諸県郡高城町大字有水の細井地区における県営農地保全整備事業に伴い、平成7年度に実施した雁寺第2遺跡・山城第1遺跡の発掘調査概要報告書である。
- 2、発掘調査は、平成7年9月18日から平成8年2月10日まで実施した。
- 3、発掘調査は、高城町教育委員会が主体となり、高城町教育委員会社会教育課主事白谷健一が行い、宮崎県教育委員会文化課主査石川悦雄の調査指導を受けた。
- 4、調査組織は以下のとおりである。

調査主体 高城町教育委員会

教 育 長 新 地 文 雄

社会教育課長 松 田 俊 夫

課長補佐兼
文化係長 有 村 修 一

調 査 担 当 町社会教育課
主 事 白 谷 健 一

調 査 指 導 県文化課主査 石 川 悦 雄

- 5、本書の執筆及び編集は白谷が行った。
- 6、出土遺物や写真及び図面は高城町教育委員会で保管している。
- 7、本書では、下記のとおり遺構略記号を用いている。

S A - 竪穴住居跡 S C - 土壙

- 8、遺構番号は、未整理のため仮の番号である。

本文目次

第 I 章	調査に至る経緯	1
第 II 章	遺跡の立地と環境	2
第 III 章	発掘調査の概要	3
	1、調査の内容	3
	2、遺構	3
	3、遺物	11
第 IV 章	まとめ	12
	報告書抄録	13

挿図目次

第 1 図	遺跡位置図	1
第 2 図	遺跡周辺地形図	2

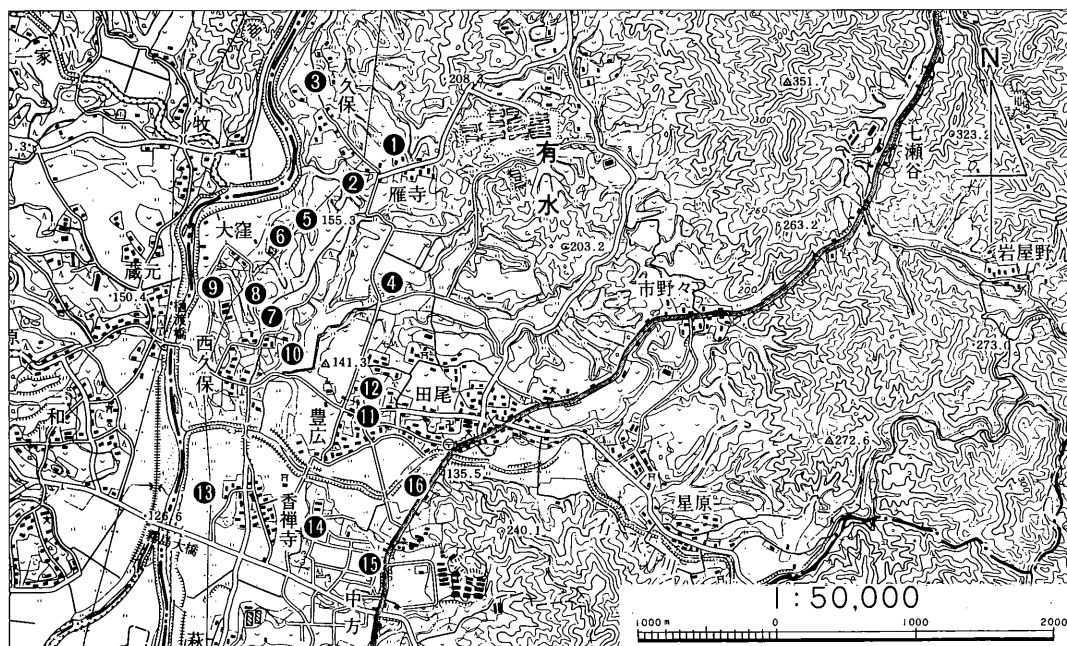
図版目次

巻頭図版 1	垂飾
2	遺跡発掘調査前空中写真
図版 1	雁寺第 2 遺跡空中写真 (C 地区)
図版 2	山城第 1 遺跡空中写真 (A 地区 1 回目)
図版 3	山城第 1 遺跡空中写真 (A 地区 2 回目)
図版 4	山城第 1 遺跡空中写真 (B 地区 1 回目)
図版 5	山城第 1 遺跡空中写真 (B 地区 2 回目)
図版 6	発掘調査風景
	体験学習風景

第I章 調査に至る経緯

細井地区県営農地保全整備事業は平成4年度より、全体事業実施予定地の南側から工事を着工しており、それに伴い平成4年度の上原第1遺跡、平成5年度の上原第2遺跡、平成6年度の上原第3遺跡の発掘調査を行っている。

平成7年度の細井地区県営農地保全整備事業は工事を行わず、平成8年度の事業実施予定地の発掘調査を行い、先行する形を採った。発掘調査を行う場所については、細井地区土地改良区、宮崎県北諸県農林振興局、高城町耕地課、宮崎県教育委員会文化課、高城町教育委員会社会教育課で埋蔵文化財について協議を行い、現状保存が困難な道路及び削平を行う部分について、記録保存の措置をとることとなった。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

- 1、山城第1遺跡 2、雁寺第2遺跡 3、八久保遺跡 4、雁寺遺跡
- 5、上原第3遺跡 6、上原第2遺跡 7、上原第1遺跡 8、須田木城
- 9、下の城 10、高城古墳群21・22号墳 11、高城古墳群20号墳
- 12、高城古墳群19号墳 13、香禅寺遺跡 14、高城古墳群16・17号墳
- 15、高城古墳群15号墳 16、高城古墳群14号墳

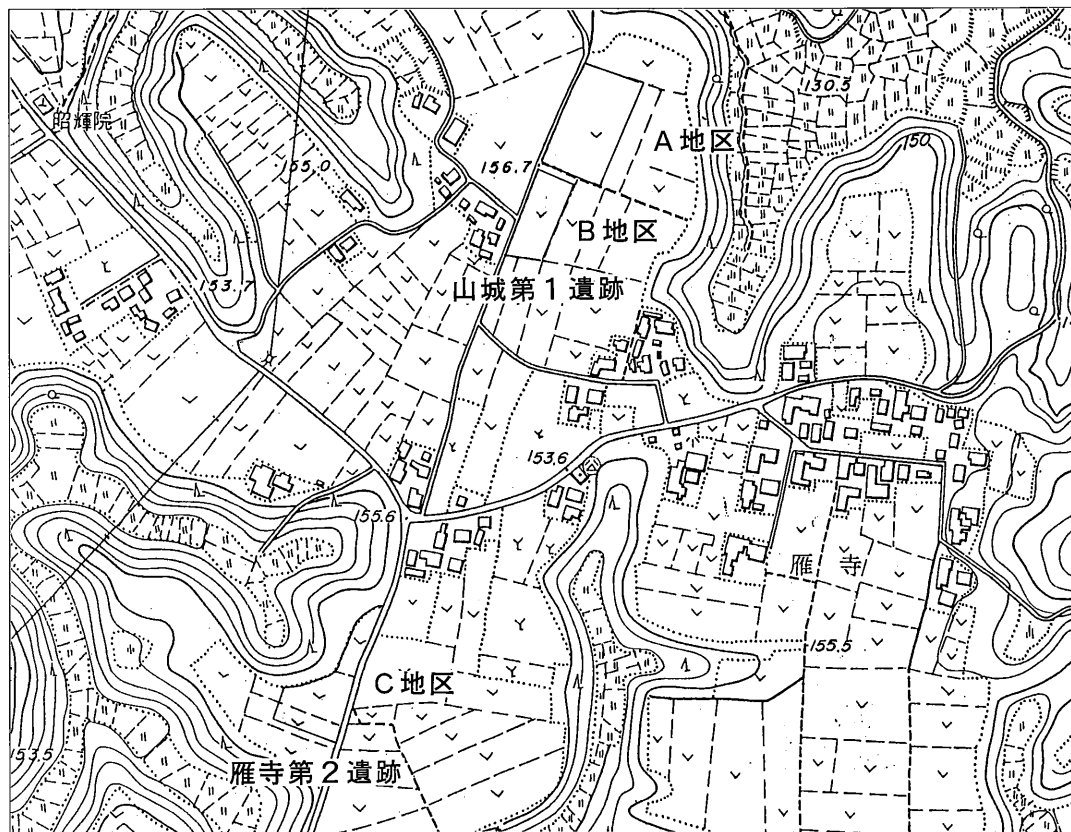
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

高城町は宮崎県の南西部に位置する都城盆地の北部にあり、北は野尻町、東は高岡町、山之口町、南は都城市、三股町、西は高崎町に囲まれている。

雁寺第2遺跡、山城第1遺跡は高城町の中心部より、北に12kmほどの所にあり、西を大淀川、南を有水川に挟まれた台地上に位置している。台地にはいくつかの谷が入っており、水が湧き出る所がある。

周辺の遺跡は縄文時代の八久保遺跡、古墳時代の雁寺遺跡の他に県指定古墳が8基あり、有水川を越えた石山の香禅寺遺跡からは板石積石室が出土している。遺跡の南側には下の城址や須田木城址といった中世山城もある。上原第1、第2、第3遺跡は、谷を挟んだ台地上に位置している。

大淀川を越えた高崎町には、古墳時代の鳩越第1遺跡や縄文時代の鳩越第2遺跡や中世山城の柳の城址がある。



第2図 遺跡周辺地形図 (1/5,000)

第Ⅲ章 発掘調査の概要

1、調査の内容

雁寺第2・山城第1遺跡の発掘調査は高城町教育委員会が主体となり、平成7年9月18日から平成8年2月10日まで行った。

発掘調査面積は5,568㎡であったが、場所によっては作物の関係で調査ができない状態であった。そのため作物の刈り入れが終わっている畑から、重機で表土を剥ぎ始め、剥ぎ終わった畑からA地区、B地区、C地区と仮の地区名を設定した。ただし、A地区とB地区は廃土を置く場所のないことから、調査区を半分に分け、半分掘っては半分を掘るという方法を採用した。A地区とC地区はトレンチャーによる攪乱をかなりの面積受けているが、3地区とも遺物包含層は残存している。

なお、雁寺第2遺跡はC地区のことであり、山城第1遺跡はA地区とB地区のことである。

基本層序は、第Ⅰ層が表土（耕作土）、第Ⅱ層が高原スコリヤ（焼けボラ）、第Ⅲ層が黒色土、第Ⅳ層が黒褐色土（ボラ少量含む）、第Ⅴ層が黒褐色土（下にいくほどボラ多く含む）、第Ⅵ層が御池ボラであった。第Ⅱ層の高原スコリヤ（焼けボラ）は788年（延暦7年）に霧島の御鉢から噴出した火山灰と言われているが、現在のところ平安時代終末の火山灰という説が有力である。

出土遺物は3地区とも、縄文～中世にかけてのものであり、縄文時代の土器が半分以上占めている。

縄文時代の土器は縄文時代後期の市来式土器、縄文時代晩期の黒川式土器が出土している。縄文時代の竪穴住居跡が4軒、土壙がかなりの数出土しているが、その時代のものである。

2、遺構

山城第1遺跡

A地区

SA-1

長軸3.9m、短軸3.2mの楕円形プランで、検出面からの深さは約30cmである。

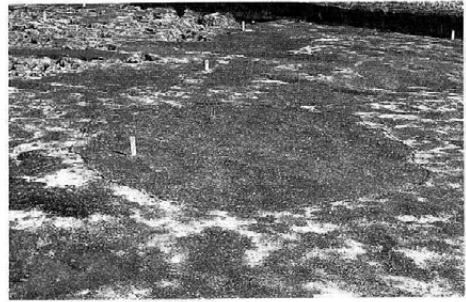


SA-1 完掘状況

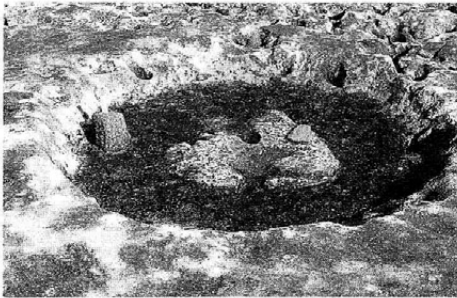
中央部にピットを伴う土壌を持つ、4本柱の住居跡である。床面は御池ボラ層である。縄文時代晩期の土器が出土している。

SA-2

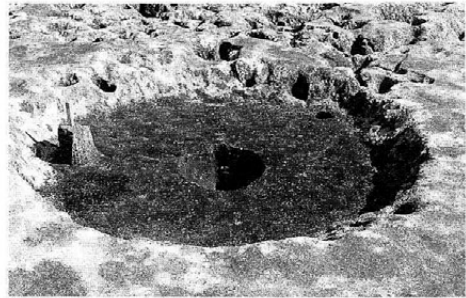
最大径4.2mの円形プランで、検出面からの深さは約30cmである。中央部に土壌を囲む形でシラスが敷かれており、床面は御池ボラ下の黒色土である。縄文時代晩期の土器が出土している。



SA-2 検出状況



SA-2 シラス出土状況



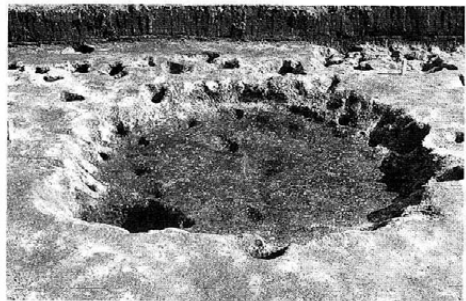
SA-2 完掘状況

SA-3

最大径3.8mの円形プランで、検出面からの深さは約30cmである。北側に円形の土壌を持ち、床面は御池ボラ下の黒色土である。縄文時代晩期の土器が出土している。



SA-3 検出状況



SA-3 完掘状況

SC-1

調査区の北壁面に出土しているため、正確には分からないが、長方形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-1 完掘状況

SC-2

長軸110cm、短軸90cmの楕円形プランで、検出面からの深さは約30cmである。

SC-3

最大径1.1mの円形プランで、南側に方形状の張り出しがあり、段になっている。検出面からの深さは約70cmである。

SC-6

長軸180cm、短軸130cmの不整形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-6 完掘状況

SC-7

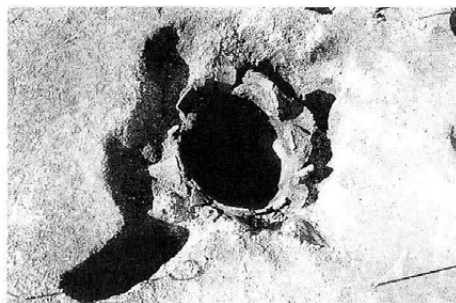
長軸130cm、短軸100cmの不整形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-7 完掘状況

SC-8

最大径40cmの円形プランで、北側に方形状の張り出しがあり、段になっている。検出面からの深さは約40cmである。縄文時代晩期の土器が出土している。



SC-8 遺物出土状況

SC-9

長軸130cm、短軸100cmの不整形プランで、南側に隅丸方形の張り出しがあり、段になっている。検出面からの深さは約150cmである。

SC-11

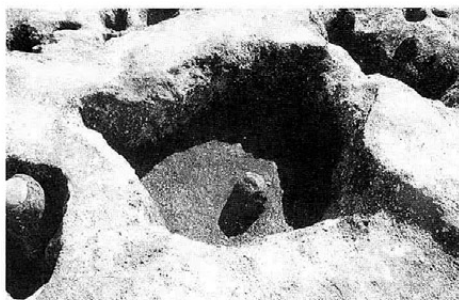
長軸120cm、短軸100cmの不整形プランで、検出面からの深さは約80cmである。



SC-11 遺物出土状況

SC-12

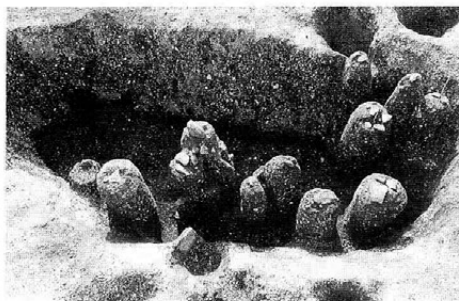
長軸140cm、短軸120cmの不整形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-12 完掘状況

SC-13

長軸220cm、短軸100cmの隅丸長方形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-13 遺物出土状況

SC-14

長軸100cm、短軸80cmの楕円形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-14 遺物出土状況



SC-14 完掘状況

SC-15

最大径90cmの円形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-15 遺物出土状況



SC-15 完掘状況

SC-16

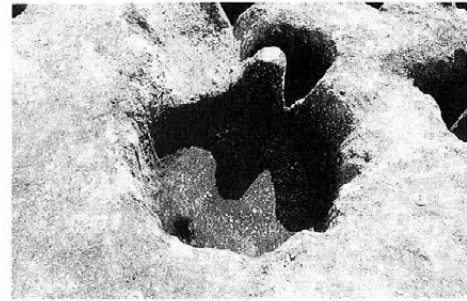
最大径100cmの円形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-16 遺物出土状況

SC-17

最大径100cmの円形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-17 完掘状況

SC-18

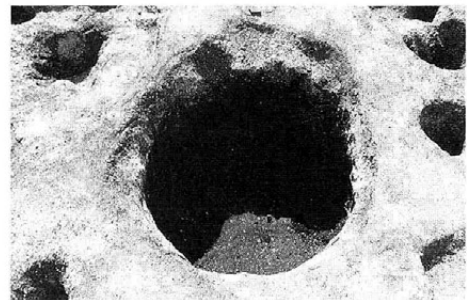
長軸120cm、短軸90cmの楕円形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-18 完掘状況

SC-19

最大径100cmの円形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-19 完掘状況

SC-20

長軸70cm、短軸50cmの楕円形プランで、検出面からの深さは約50cmである。

SC-22

最大径90cmの円形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-22 遺物出土状況



SC-22 完掘状況

SC-23

長軸110cm、短軸100cmの楕円形プランで、検出面からの深さは約50cmである。



SC-23 遺物出土状況



SC-23 完掘状況

SC-31

最大径120cmの円形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-31 完掘状況

SC-32

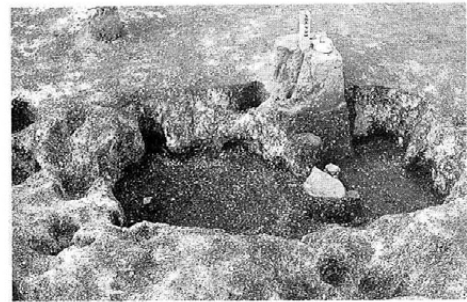
調査区の西側に出土しているため、正確には分からないが、最大径100cmの円形プランである。検出面からの深さは約40cmある。



SC-32 遺物出土状況

SC-33

長軸200cm、短軸110cmの長方形プランで、検出面からの深さは約40cmである。



SC-33 遺物出土状況

SC-34

最大径90cmの円形プランで、検出面からの深さは約40cmである。

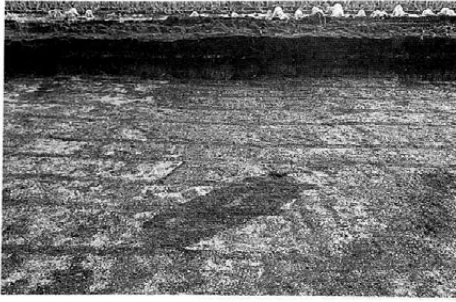


SC-34 遺物出土状況

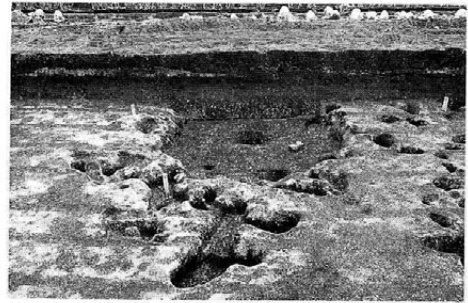
B地区

SA-1

調査区の東壁面から出土しているため、正確には分からないが、直径3mほどの円形プランである。時期は土器が出土していないため、不明であるが、縄文時代晩期だと思われる。



SA-1 検出状況



SA-1 完掘状況

3、遺物

遺物の出土量は、A地区、B地区、C地区の順に多かった。各地区とも、縄文時代後期、晩期の土器が多く、陶磁器の出土はほとんどなかったが、須恵器や土師器がいくつかあった。

縄文時代後期の土器は口縁部が波状口縁で、貝殻腹縁文を胴部に施すものである。土器の色調は赤褐色系がほとんどである。

縄文時代晩期の土器は俗に黒色磨研と呼ばれる磨研土器である。浅鉢がほとんどである。

須恵器は土器片で、内外両面に叩き痕を持つ壺形であった。

石器の出土も多く、石斧が打製、磨製の完成品、未成品を合わせて10数点出土している。石材は砂岩、蛇紋岩などを使っている。

垂飾品は2点出土しており、いずれも遺物包含層からである。垂飾品の石材は、1つはチャート製で大きさが4.3cm、もう1つのは石材が不明で3.5cmである。いずれも上部を一方面の方向から穿孔している。



磨製石斧



垂飾出土状況

第IV章 ま と め

今回の発掘調査では、竪穴住居跡4軒、土壇数10基が出土している。現在、整理段階のため、正確な数を述べることができない。そのため詳しく考察することができないが、若干の私見を述べてみる。

高城町において、縄文時代の竪穴住居跡は上原第1遺跡で8軒、上原第2遺跡で1軒、上原第3遺跡で4軒が出土しているが、縄文時代晩期の竪穴住居跡は上原第3遺跡で1軒出土しているだけで、他の12軒は縄文時代後期の竪穴住居跡である。住居跡のプランは円形プランがほとんど占める。今回出土した住居跡も、円形プランであるが、1軒だけ変わったものがあった。中央部に土壇を持ち、その周辺をシラスで囲んでいた。こういった用途でシラスを敷いたのか分からないが、あまり踏み固められた様子ではない。土壇は深いところで70cmほどでピット状になっている。何のためにシラスを敷いたのかは、今後、類例を探し、考えていきたい。

土壇はいろいろな形があるが、今回、埋甕が出土している。時期は縄文時代晩期であるが、おそらく小児甕棺であろう。埋土をサンプリングしているので、脂肪酸分析を行い、追求していきたいと考えている。

その他に前回の発掘調査と同様に垂飾品が、遺物包含層から2つ出土している。県内で縄文時代の垂飾品が、これほど出土する遺跡はなく、特異な遺跡だと感じさせ、垂飾品を身に付けることができた人がいたことの証しである。

今後の研究課題は垂飾品が地元で生産されていたのか、他の地域から入ってきたのかの解明である。その手掛かりとしては蛇紋岩製の磨製石斧であり、生産地を解明することでこういった地域と交流があったか分かる。

現在、遺構・遺物が未整理の段階で、詳細なことを報告できないため、本報告に期したいと思う。

〈参考文献〉

『高城町史』 高城町教育委員会 1989

『遺跡詳細分布調査報告書』 『高崎町文化財調査報告書第3集』

高崎町教育委員会 1992

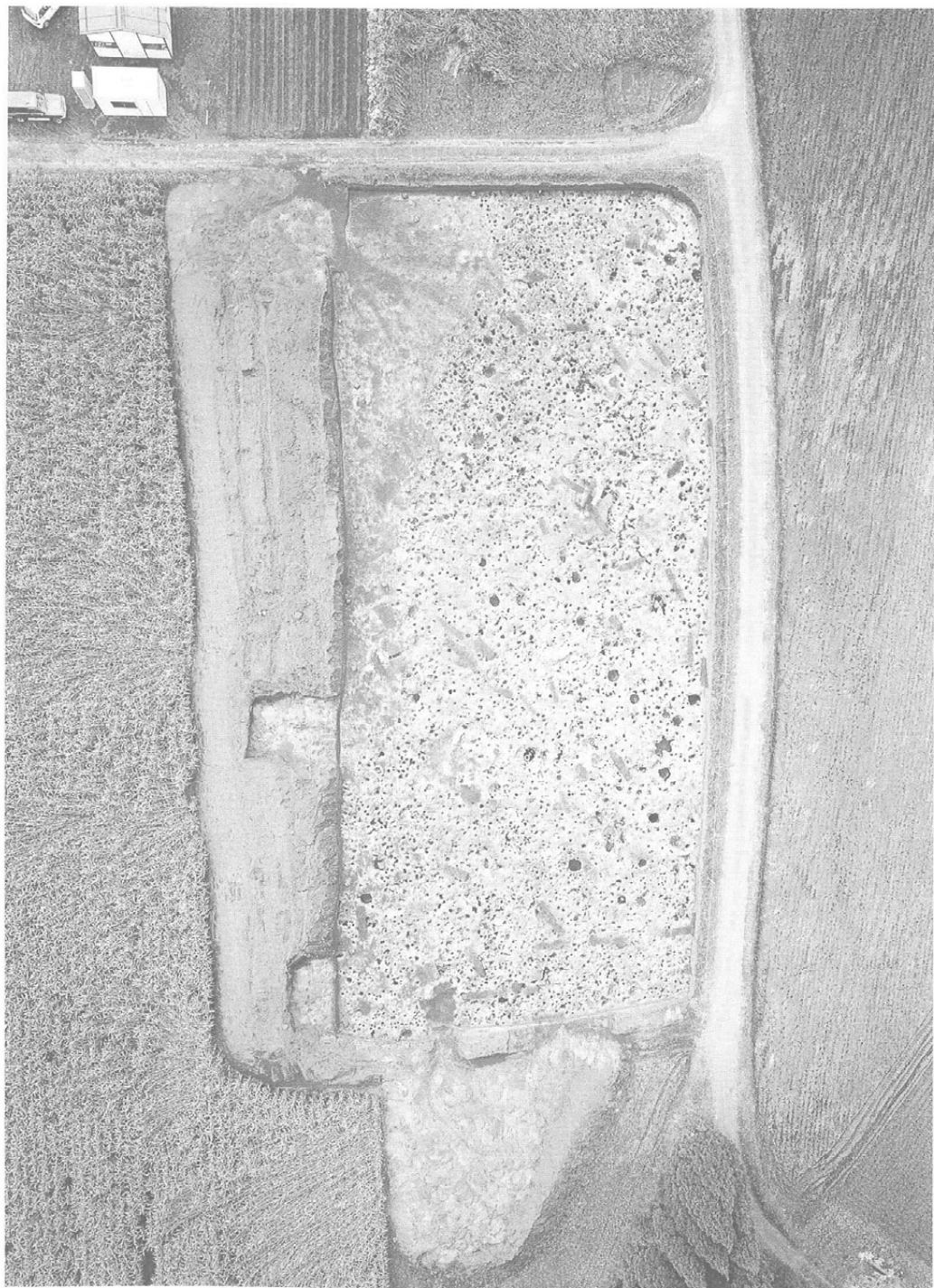
報 告 書 抄 録

ふりがな	がんでら やましる					種 別	
書 名	雁寺第2遺跡 山城第1遺跡					村落	
副 書 名	平成7年度細井地区県営農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書					主な遺跡	
巻 次						縄文時代晩期	
シリーズ名	高城町文化財調査報告書					土壙	
シリーズ番号	第5集					土壙	
編 者 者 名	白谷健一						
編 集 機 関	高城町教育委員会						
所 在 地	〒885-12 宮崎県北諸県郡高城町大字穂満坊46-2 TEL0986-58-2317						
発行年月日	西暦 1996年3月29日						
ふりがな	所 在 地	コ ー ド	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村					
雁寺第2遺跡	宮崎県北諸県郡 高城町 大字有水	453439			19950918 ~ 19960210	5,568	細井地区 県営農地 保全整備 事業に伴 う事前調 査
山城第1遺跡							縄文土器（市来式、黒色磨研） 弥生土器、土師器、須恵器 垂飾、石鏃、石斧 特 記 事 項 ・住居跡、土壙墓、貯蔵穴を確 認。 縄文時代集落の様相を知るこ とができる。

版 圖



雁寺第2遺跡空中写真（C地区）



山城第1遺跡空中写真（A地区 1回目）



山城第1遺跡空中写真（A地区 2回目）



山城第1遺跡空中写真（B地区 1回目）



山城第1遺跡空中写真（B地区 2回目）



発掘調査風景



体験学習風景

高城町文化財調査報告書 第5集

雁寺第2遺跡

山城第1遺跡

発行年月 平成8年3月

発行 高城町教育委員会

印刷 株式会社 文昌堂